

# 執筆の手引き

2014-11-01

## [1] 本誌の取り扱い原稿

本誌では下記のAからDの内容について基本的に会誌編集委員会から原稿を依頼しています。会員の皆様からの投稿も歓迎します。下記ジャンル以外の特別寄稿も含め、投稿の際には執筆前に連絡先へご相談下さい。なお、原著論文は取り扱っていません。

- A. 論文：特集、総説、実験・実習技術、治療薬・創薬シリーズ、新薬紹介総説
- B. サイエンス読み物：キーワード解説、最近の話題、など
- C. その他の読み物：アゴラ、リレーエッセイ、学会／海外便り、コレスポンドンス、研究室訪問、書評、新教授紹介
- D. 広告：広告代理店（福田商店）取り扱い

## [2] 原稿に共通の事項

- 1 依頼原稿を除き、投稿原稿の筆頭著者は日本薬理学会員でなければならない。原稿は未発表のものに限る。論文掲載の採否は査読および校閲により決定する。
- 2 原稿中にすでに公表された図表・文章を再利用するときは、転載元の出版社等から許諾を取り、図表の説明文中に明記する。文章の再利用はフットノートに明記する。図表を改変して用いるときは説明文中に「改変」と断り、その出典元を明記する。
- 3 原稿は、人を対象とする場合にはヘルシンキ宣言を遵守し、動物実験は「動物実験に関する日本薬理学会指針」に基づいて倫理的に行われたものでなければならない。（129巻1号10-11頁 参照）
- 4 学術用語は日本薬理学会薬理学用語集ならびに日本医学会医学用語辞典に従う。ただし、両者の表現が異なる場合は日本薬理学会薬理学用語集を原則として優先する。http://www.pharmacol.or.jp/glossary/ex-glossary-a.htm および http://jams.med.or.jp/ を参照。
- 5 薬物名および化学名は一般名を用い、なるべくカタカナで記載する（除、新薬紹介総説）。外国人名、および一般化されていない化学薬品名、物質名は原語を用いてよい。その他は原則として日本語を用いる。
- 6 略字は、 $\mu$ g, mg, g, kg,  $\mu$ m, mm, cm, s, min, h,  $\mu$ M, mM,  $^{\circ}$ C, % などを用い、各略語の後にピリオドはつけない。本文中の時間の単位はmsを除き原則として日本語とする。
- 7 生薬成分を扱う論文（122巻1号1A 参照）：植物は種の学名をラテン語（イタリック体、命名者名は立体）で記載し、植物が属する属または科名を括弧書きする。
- 8 文献：本文中での引用順に1), 2), 3), ...とし、次の順序に書く。  
雑誌：筆頭著者名、雑誌名、年、巻、開始頁-終了頁  
(例) Inden M, et al. J Pharmacol Sci. 2005;97:203-211.  
本：筆頭著者名、書名、発行所、年、巻、開始頁-終了頁  
(例) Phillips SJ, et al. Hypertension: pathophysiology, diagnosis, and management. Raven Press; 1995. p. 465-478.
- 9 原稿は編集者により修正されることがある。著者は校正時に確認する。

## [3] 各原稿の書き方

- 1 内容、印刷頁数など（下の表をご参照の上、字数の目安と印刷頁数にご留意ください。）

欄	内容	字数 (A4判用紙に40×25行で作成。図表は相当する字数を減らす。)	印刷頁数	投稿料	
A	特集	序文および3-5篇の総説で構成	序文：1600字程度、各総説：要約+本文+文献+図表=1万字程度	序文を含み36頁	左を超えた頁は有料
	総説	薬理学および関連領域の最近の進歩を中心に解説を加えたもの	同上=1万字程度	7頁	同上
	実験・実習技術	新しい実験方法、実験装置、学生実習の方法などについて解説的に紹介したもの	同上=1万字程度	7頁	同上
	治療薬・創薬シリーズ	治療薬、創薬を疾患別に紹介したもの	同上=1万字程度	7頁	同上
	新薬紹介総説	承認された新薬を薬理学データと臨床データを基礎に紹介したもの	本分14枚+図表8枚程度	12頁程度	全頁有料
B	キーワード解説	キーワード2-3件、英語の表題と著者名；本文+文献+図表=3,900字程度	3頁	左を超えた頁は有料	
	最近の話題	キーワード2-3件、英語の表題と著者名；本文+文献=1,900字程度	1頁	同上	
C	a：学会／海外便り、b：書評	a：1500字+写真、b：1800字；著者名の英語	1頁	同上	
	コレスポンドンス	2100字、キーワード2-3件、著者名の英語	1頁	同上	
	研究室訪問	550字+写真	半頁	無料	
	新教授紹介（会員のみ）	氏名、読み、就任年月日、所属名称、住所、TEL、FAX、E-mail。改行して本文400字以内+写真	1/4頁	無料	

## [8] 著作権

本誌に掲載された論文、抄録、記事等の著作権は、(公社)日本薬理学会に帰属する。本会はこれら著作物の全部または一部を、本会のホームページ、本会が認めたネットワーク媒体・その他の媒体において掲載し、出版（電子出版を含む）することができる。

## ネットワーク上での利用について

- [1] 本誌の取り扱い原稿のAおよびB欄（Bは2013年1月号掲載分より）は、J-STAGEで無料公開しています。本会はリンクを貼ることを許諾していますが、J-STAGE以外のサイトにpdfや原稿を載せることは認めていません（別途日本薬理学会と契約のある場合を除く）。

## 2 A. の書き方

- ① 第1頁に表題、著者名、所属機関名、住所、メールアドレスを書く。また、頁右上に20字以内の日本語の略題を、頁左下に日本語のキーワード5件を書き、さらにその下に英語の表題と著者名を付記する。
- ② 次頁に800字以内（治療薬・創薬シリーズは400字以内）の日本語の要約を書く。文章は改行せず、全文を一段落とする。
- ③ 図表は本文とは別にし、それらの挿入位置を本文中に示す。図表とその説明は、文献から引用の場合も含め、日本語で簡潔に書く。顕微鏡写真の倍率を示すスケールバーは写真の中に入れる。
- ④ 文献は [2] 8を参照。
- ⑤ 希望する4名の校閲者／査読者を明記する。回避したい校閲者／査読者はその理由を添えて知らせることができる。但し、会誌編集委員会はこの希望に拘束されない。なお、提供された情報は公開しない。
- ⑥ 読者をなるべく惹きつけるような短いタイトルを作成する（必要により副題をつける）。

## 3 B. C. の書き方

- ① 下の表に記載の字数で原稿を作成する。
- ② E-mailの本体部分に連絡先（氏名、所属、電話／FAX番号）を明記する。

## [4] 掲載料（消費税抜き本体価格）

- A, B, C欄：[3]の各欄規定印刷頁数以内は無料。これを超過した場合は投稿料として12,000円/頁。ただし、新薬紹介総説は全頁有料（36,000円/頁）。カラー印刷代については、新薬紹介総説欄は50,000円/頁、それ以外の欄は35,000円/頁。別刷代金は別途。
  - D欄（広告）：後付42,000円/頁、25,000円/半頁、他。
- 詳細は福田商店広告部（〒541-0046 大阪市中央区平野町3-2-13 平野町中央ビル4F TEL 06-6231-2773(代)、FAX 06-6231-0775)まで。

## [5] 原稿の送り方

- 1 原稿はすべて電子ファイルにして、E-mail添付で送る。
- 2 本文および表の作成はWord、図はpdf、PowerPointなど汎用ソフトを使用する。
- 3 図をpdfにする場合は、文字化けを防ぐために「すべてのフォントを埋め込む」を選ぶ。
- 4 1ファイルを3MB以内とする。図表の数が多い時やカラー図のためファイルが3MBを超える時は、図表を複数ファイルとする。

## [6] 利益相反 (COI) について

- 「日本薬理学会利益相反 (COI) に関する指針」に基づき、[1] A, B欄の原稿送付時には「日本薬理学雑誌：自己申告によるCOI報告書」を提出してください。日本薬理学会利益相反 (COI) に関する指針および申告書は日本薬理学会ホームページ (http://www.pharmacol.or.jp/) からダウンロードすることができます。

## [7] 連絡先

中西印刷(株) 日本薬理学会誌出版部  
〒602-8048 京都市上京区下立売通小川東入  
TEL: 075-441-3155, FAX: 075-417-2050  
E-mail: journal@pharmacol.or.jp